



かながわの交通

2012
10

交通安全年間スローガン佳作(全日本交通安全協会会長賞)
～歩行者・自転車利用者に対するもの～

自転車も 早め点灯 反射材



秋の全国交通安全運動キャンペーン(上=加賀町交通安全協会、下=横浜水上交通安全協会)

ハンドルキーパー運動推進中!

飲酒運転根絶!!
今日のハンドルキーパーさんは?

◎県内の交通事故発生概況(9月末現在)

◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数		総数	男	女
平成24年		26,930	121	32,114	県人口	9,073,190	4,545,831	4,527,359
平成23年		28,510	119	34,125	免許人口	5,533,982	3,222,518	2,311,464
増減数		-1,580	+2	-2,011	割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人
増減率		-5.5	+1.7	-5.9				

(県人口は平成24年9月1日、免許人口は平成24年8月末現在)

着任挨拶

神奈川県警察本部
交通部長 猪又 博



交通部長の猪又でございます。この秋の人事異動により着任いたしました。

交通安全協会の皆様におかれましては、平素からハンドルキーパー運動やドライバー、歩行者等の交通安全意識を高揚させるための幅広い交通安全活動など警察行政各般にわたり御支援、御理解を賜り厚く御礼を申し上げます。

違法駐車追放運動の実施

首都圏放置自転車クリーンキャンペーン

趣旨

違法駐車や放置自転車バイクが交通事故や交通渋滞の原因となっていることから、県民一人ひとりが交通ルールを守り、駐車マナーを向上させることにより安全で円滑な交通環境を確保するため、10月中違法駐車追放運動を県民運動として実施するものです。合わせて「首都圏放置自転車クリーンキャンペーン」神奈川県推進会議が主唱して、自転車等の放置を防止するため、関係機関・団体が相互に

さて、県内の交通事故発生状況につきましては、9月末現在、人身交通事故の発生件数及び怪我をされた方は、減少しておりますが、亡くなられた方は、昨年よりも2人多い121人となっております。とりわけ9月中は交通事故死亡事故が激増し、昨年を11人上回る19人と大変厳しい状況となっております。さらには、昨年は10月中に死亡事故が多発していることから、何としても現在の状況に歯止めをかける必要があります。このことから、皆様方と連携を二層強化し、県民の心に響く交通事故防止対策を推進したいと考えております。

そこで、県警察では、悪質な交通違反の取締りを強化するとともに、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを実践するための交通安全教育など、交通事故防止の重要性を実感できる施策を推進してまいります。どうか、皆様におかれましても、今まで以上に地域、家庭における交通安全意識の高揚等にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。結びになりますが、交通安全協会のますますの御発展と会員皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。着任の挨拶とさせていただきます。

交通安全協会の推進事項

- ・放置自転車等クリーンキャンペーンとしてイベントなどを開催し、違法駐車、放置自転車等の追放気運を盛り上げるとともに、合わせて自転車利用者に対し、交通ルールの遵守とマナーの向上及び自転車等の防犯登録、記名促進を呼びかける。
- ・運動の周知を図るため、違法駐車追放運動その他各種行事、広報誌、ポスター等を通じて、積極的に広報活動を推進する。
- ・関係機関・団体と連携を密にして、違法駐車や放置自転車・バイクの追放運動を効果的に推進する。

期間

10月1日(月)から10月31日(水)までの1ヶ月間

スローガン

- ・違法駐車追放運動
- ・ちょっとだけ 甘えが招く迷惑駐車
- ・クリーンキャンペーン
- ・困ります！ 自転車置きざり 知らんぷり

平成24年度 関東管区警察局長 連名表彰 関東交通安全協会連合会会長

この表彰は、地域、職場等において交通安全活動を積極的に推進し、交通事故防止に功績のあつたと認められる団体及び長年にわたり安全運転に努め無事故の優良運転者に対して行われるもので、本県では次の方々(団体)が受賞されました。おめでとうございませう。

- ◎交通安全功労団体
- 姥ヶ森町内会・代表 大橋新太郎(川崎臨港)、川崎交通指導員連絡部会・代表 横山直幸(川崎)、交通安全劇場・代表 兼田智子(座間)、湘南京急バス(株)堀内営業所・代表 小林不二夫(横須賀)
- ◎交通安全優良事業所
- 川崎鶴見臨港バス(株)・代表 谷澤幹男(川崎)
- ◎優良運転者
- 田淵静枝 磯子、村上順子 保土ヶ谷、古屋敷エチ子、藤平明子 旭、島崎直樹 港南、漆原茂夫 港北、大友徹 青葉、大熊本夫 都筑、黄金井敏明、峯藤茂 栄、山申明、田中達也 泉、長崎憲司、関みよ子 川崎臨港、床津敏夫 高津、廣瀬誠記、中島公雄 横須賀、仲川幸威 逗子市、小林鎮 鎌倉、花房昭美 藤沢市、小林祥浩、河原信隆 畠山誠 藤沢北、岩倉崇徳 小田原、山口百合子、榎本樹男 秦野市、小林勝美 厚木署管内、木村重保 大和綾瀬、三原操 海老名市、山本輝男、竹原小夜子 津久井

(敬称略)



～交通死亡事故抑止活動の強化継続～

本年の県下の交通事故による死者数は、8月中18人、9月中は19人で前年比プラス11人<9月末現在では121人(前年比+2人)>と**激増**しています。県警をはじめ各団体が街頭活動や広報啓発活動などを強化中ではありますが、依然として厳しい情勢にあります。秋の全国交通安全運動は終了しましたが、悲惨な交通死亡事故の抑止に特段のご配慮をお願いします。



秋の全国交通安全運動実施結果

9月21日(金)から30日(日)までの10日間、「子どもと高齢者の交通事故防止」を運動の基本に実施した秋の全国交通安全運動では、期間中、発生件数、負傷者数ともに減少しましたが、死者数は5人で前年より3人増加しました。亡くなられた方は、二輪車運転者が3人と歩行中の4歳の園児及び33歳の女性(ひき逃げ)となっています。

◇ 期間中の県下の交通事故発生概況

区分	発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
本年	951	5	1,152
前年同期比	-14.5	+3	-16.3
増減率(%)	-13.2	+150.0	-12.4

◇ 期間中の全国の交通事故死者数、ワースト順位

順位	① ② ③											全 国	
	愛知	長野	東京	兵庫	神奈川	埼玉	広島	福岡	千葉	群馬	栃木		大分
都道府県	知	野	京	鹿	川	玉	島	岡	馬	島	手	阪	
死者数	13	7	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	125
前年同期比	10	4	3	3	3	1	4	3	2	2	2	1	21

秋の全国交通安全運動オープニングセレモニー

県警では地元警察署とともに、秋の全国交通安全運動を周知し、県民の交通安全教育活動への関心と交通事故防止に対する意識を高めるため、運動の基本である「子どもと高齢者の交通事故防止」をテーマに、相模原市緑区JR橋本駅前の「アリオ橋本」において、「秋の全国交通安全運動オープニングセレモニー」を開催しました。

屋内会場では、交通安全母の会等とのトラビック共演、自転車シミュレーター体験等各種コーナーを設けたほか、屋外広場においては、自バイやパトカーの展示、「モグラたたき」に似た「点灯くん」により反射神経を測定するなど、買い物に訪れた親子連れなどが楽しみながら交通安全を学んでいました。



九都県市一斉自転車安全利用キャンペーン

神奈川県及び海老名市交通安全対策協議会、海老名警察署等と連携し、「秋の全国交通安全運動」キャンペーンの一環として、運動の初日である9月21日を九都県市(神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県、横浜市、川崎市、相模原市、さいたま市、千葉市)一斉自転車安全利用の日として、海老名駅東口2階通路において、チラシや啓発物を配布するとともに、1日警察署長に委嘱した地元県立海老名高校生等の参加を得て、コーラスの後、イラストを示しながら声を合わせて、自転車利用者の交通ルールの遵守と交通マナーの向上を力強く呼びかけました。



賛助会員のご紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。

- 富士防災(株) ————— 東京都豊島区北大塚
- 三球電機(株) ————— 東京都練馬区貫井
- 小糸工業(株) ————— 東京都港区高輪
- (株)武田商店 ————— 東京都渋谷区恵比寿

インフォメーション

- 自転車安全教育指導員講習会 — (11/9) 辻堂交通公園
- 自転車安全教育推進委員会 — (11/16) 県協会会館
- 二輪車安全運転推進委員会 — (11/16) 県協会会館
- 県交通安全功労者表彰式 — (11/22) 県立音楽堂

タイムマシーンを見てみたい

25

警察官から見た交通死亡事故の回顧録

(人生の分岐点)

医大生が、友人との約束の時間に遅れそうだったことから、焦って車を運転していたところ、道路を自転車で横断していた小学生の発見が遅れ、その小学生をはねてしまいました。

幸いにも小学生は、一命は取り留めることができたのですが、全く望んでいない人生を送ることを余儀なくされてしまいました。

事故からしばらくして、小学生と母親から事情聴取した際、その衝撃的な事実を知ることになりました。

車椅子に乗った小学生は、子供らしい明るさで事情聴取に応じ、

「僕は、もうすぐ歩けるようになるんだ。お母さんがそう言ってたんだよ。」

と答えました。私も笑顔でその言葉に頷きました。

しかし、その後、母親に、怪我の具合について聞くと、母親は、

「実は子供には話していませんが、お医者さんからは、

怪我は治らず、一生車椅子の生活になると言われているです。」

と、涙ながらに打ち明けたのです。

子供の将来を案ずると、この事実をどうやって息子に伝えたいのか、何ともやりきれないという思いが、母親の表情から見て取れました。

一方、この事故を起こした医大生はというと、人の命を救いたいという思いから選んだ医者という職業への道を志し半ばで諦め、退学し、田舎へ帰ってしまつたということでした。

真面目で誠実な医大生は、まだ将来のある子供から自分の足で歩くという当たり前の人生を奪ってしまった罪悪感に堪えられなかったのでしょうか。あるいは、医者を目指す資格は自分にはない、と思ひこんでしまつたのでしょうか。

交通事故は、将来ある二人の人間の進路を大きく変えてしまいました。進むはずだった航路から大きく外れて…

第35回自動車なんでも無料相談所の開設

社団法人神奈川県自動車会議所主催、当協会等共催により11月6日(火)、7日(水)各日午前11時から午後5時までの間、横浜駅東口の新都市プラザにおいて自動車なんでも無料相談所が開設されます。

相談所では、①自動車の売買に関すること②自動車の故障、整備・車検に関すること③バスタクシー利用上の意見・要望④荷物の運送や引越の相談⑤交通事故や自動車の税金に関すること等について15団体30名の相談員が相談に対応します。会場においてにれない方には、電話045(451)0205でも相談を受けることとしています。



県警からのお知らせ

駐車監視員活動地域等の変更

駐車監視員が違法駐車の確認事務(取締りの一部)を行う地域・道路(路線)などを定めた「ガイドライン」が8月1日から変更となっています。

県警察では、違法駐車の手配・取り締まりを継続します。車やバイクは駐車場等に止めましょう。

※ガイドラインは県警ホームページ

<http://www.police.pref.kanagawa.jp/mes/mesf4039.htm>に掲載。

●問い合わせ

最寄りの警察署または県警察本部駐車対策課
Tel 045-(211)1212 (代表)内線5283



地区交通安全協会会長会議

9月13日(木)午後、ロイヤルホールヨコハマにおいて地区交通安全協会会長会議が開催されました。

会議の冒頭、石坂会長から秋の全国交通安全運動を控えて、川崎市多摩区で発生した子どもの死亡ひき逃げ事故等全国的に子どもの痛ましい交通事故が目立つこと、高齢者の事故が増加傾向にあること、自転車については

電動自転車など利便性の追求で交通事故に対する安全性が忘れられていること等を指摘したうえで、道路環境、交通実態等は各地区で異なることから地元の道路、交通の危険性等に精通した地区会長の方々に本運動を含めて今後とも交通安全に力を貸していただきたい旨の挨拶がありました。

続いて県警本部猪又交通部長から9月10日付けで交通部長に赴任したこと、交通事故発生件数、死者数、負傷者数が統計上一番低く、昨年と比べて減少傾向にあることに謝意を表した後、ドイツの幼少時教育、フランスの自転車ヘルメットの義務化等に

触れ、本県でも学校で「チリリンタイム」を通じて交通安全教育に力を注いでいるが、警察の力も限界があること及び多くの信号機や道路標識についても管理上の問題があることから支援・協力を要請し、安全施設面から

も対策を推進する旨の挨拶がありました。

この後、荻原運転免許本部長からは、本年4月に一部改正があった運転経歴証明書制度について、改正概要の説明の後、特に高齢者事故防止の観点から有効活用願いたい旨、また、県安全防災局安全安心部小田部長からは高齢者事故多発地区の指定を絡めた高齢者の事故防止及び12月の飲酒運転根絶強化月間と同月間中の麻生区における県民大会、年末の交通事故防止運動に対する取り組み等について挨拶をいただきました。

会議では、高橋専務理事から今秋の全国交通安全運動の進め方と各地区の取り組み、将来を見据えた功労者表彰、免許会員の獲得等について、また事務局長及び各部長から所管事項についてそれぞれ説明がありました。

会議終了後、懇親会をかねて当協会板橋悟副会長の「旭日双光章受章を祝う会」が盛大に行われ、懇親を深めることができました。



トピックス

セーフティレーニング

9月9日(日)、一般社団法人日本自動車連盟、一般社団法人日本自動車工業会、財団法人全日本交通安全協会共催、当協会等後援による平成24年度「セーフティレーニング」が関東運輸局神奈川運輸支局で開催されました。

このセーフティレーニングは抽選で選ばれた31人(男性26人、女性5人)の方がマイカーを会場に持ち込んで受講するもので、午前、受付時に車両点検を済ませて開講式を行った後、運転の基本(運転姿勢、点検、死角)、パイロンスラローム(車両感覚、ハンドル操作、内輪差)、急ブレーキ講習(目標制動、信号システムを使った反応ブレーキ)を行い、午後からはASV体験(衝突被害軽減ブレーキ等の体験走行)、視機能診断(診断装置による視野の広さや距離感覚等の認識)、運転と反応(迅速で正確な判断と操作)などについて受講しました。講習後受講者に修了証が交付され、自動車の安全に対する最新のメカニズムを実体験し、自己流の運転技術、クセを見直すことができたとのことで好評でした。





ハンドルキーパー運動の紹介

その258 栄交通安全協会から

栄交通安全協会(鈴木一美会長)では、「はたらく車大集合」のイベント会場において、子どもの見守りの中で保護者に飲酒体験ゴーグルを装着して直線ラインを歩行させるなど、飲酒運転根絶、飲酒交通事故の防止を呼びかけました。



その257 磯子交通安全協会から

磯子交通安全協会(黒川順吉会長)では、警察、母の会等と連携し、国道16号沿線において、幟旗を掲出し、啓発物を配布しながらハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その260 大船交通安全協会から

大船交通安全協会(齊木昭嘉会長)では、鎌倉女子大前交差点において、飲酒暴走追放の幟旗を掲げチラシや啓発物を配布しながらハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その259 高津交通安全協会から

高津交通安全協会(田村克久会長)では、区民祭において交通安全パレードを行い、広報車による広報に続いて幟旗を掲げ、ハンドルキーパーうちわを配布しながら飲酒運転の防止、ハンドルキーパーの確保を呼びかけました。



交通安全子供自転車全国大会観戦記

神奈川県警察本部交通部交通総務課
交通安全教育隊 米山文美子

8月1日。

各県代表選手の色とりどりのユニフォームと、その応援団で埋まった東京ビッグサイト。

広い広い会場と独特な雰囲気。

競技開始と共にピンと空気が張り詰め、潮がひくようにざわめきが静まった。

全国から選抜された選手たちが、次々と正確な実技を披露していく。緊張しつつも見事なハンドルさばきを見せ、拍手が沸き起こる。

そのとき、選手が木製のピンを倒した。「カラーン!」天井にかん高く響く。

地方大会を勝ち抜いてきた選手だけに、失敗や、自分が納得のいかない走りをした悔しさで、涙をあふれさせた目で席に帰ってくる。

ぼろぼろと頬を落ちる涙の粒に、選手が今までに努力してきた時間が、そして指導者の想いと、それに答えようとする無垢な気持ちが見えて、胸がきゅとする。

この自転車大会に臨む練習は、実技に座学もあり、厳しさと愛情で各地の指導者が教え、支えている。

今の時代に、幼いころからこんなに真剣に教え、教わる関係が持てるというのは、なかなかないことだと思う。

聞けば、この厳しい指導を経験した子供たちは、その後もがんばってよい人生を築いている子が多いという。

普段、なにげなく乗っている自転車だが、交通法規に則って、安全に利用しなければいけないものだという事を、もっとたくさんの子供、大人に知ってほしい。この自転車大会が、そのひとつの方法として更に広がり、指導者と選手の、幸せなつながりを体験する人も増えていってほしいと願っています。

来年は、どのチームが全国大会に進むのでしょうか、今からわくわくしています。





平塚市交通安全協会
会長

川口 淳さん
かわぐち じゅん

平塚は、江戸時代には東海道五十三次の宿場町として栄え、明治20年に東海道線が開通してから平塚駅を中心に発展し、昭和7年には県下で4番目の市となり、第二次大戦では大きな被害を受けましたが、力強く再興し、1町7村を合併して現在の平塚市となりました。

平塚市交通安全協会は、昭和28年4月、平塚市見附町に事務所を構えて発足しましたが、市のあゆみとともに当協会も、昭和45年頃から各支部を結成し、事務所も数度の移転を経て、平成9年に現在地に移転、現在は28支部302名の交通指導員を擁しており、平成22年4月に一般財団法人として新たにスタートしたところです。

当協会の川口淳会長は、昭和12年に神奈川県中郡岡崎村に生まれ、横浜、ゴム(株)に勤務された後、昭和40年、農業を手伝いながら(有)川口電機を設立しました。現在は、農業に専念して成果を上げ、生産する減農薬野菜や米の評判を聞きつけて県内外から多くの人が訪ねてきます。また、平成10年より地元岡崎小学校の職能教育指導員として、毎年5月中旬頃田植えの指導教育も行っています。

趣味は、ゴルフや旅行で、日本各地はもちろ

ん、ヨーロッパ、アメリカ、シンガポールや北京(オリンピック)などさまざまな国を訪れ、現地の人との触れ合い交流を深めました。

会長は、地域のボランティア活動に深い関心を持ち、昭和52年に当協会の交通指導員として委嘱を受けてから、学童登校時の交通指導等を積極的にを行い、平成元年には、岡崎支部の支部長と理事を兼務した後、平成9年には、協会の常任理事、平成19年に副会長を歴任され、平成23年10月に前会長の急逝に伴い会長に就任されました。

全国的にも有名な「湘南ひらつか七夕まつり」には第8回から当協会挙げて協力しています。川口会長としては、平塚市交通安全対策協議会等と連携して「自転車事故減らし隊」等を組織し、また、年末の交通事故防止運動中に行われる、「交通事故大根絶キャンペーン」で配布する大根を生産・提供していただいているほか、農業生産組合組合長、中栄信用金庫総代、湘南農業協同組合総代、岡崎地区自治会連絡協議会長などの要職にあるお立場からも企業や地域に交通安全を呼びかけるなど、積極的に交通事故防止運動に取り組んでいただいております。その結果、本年は、交通事故件数、死者数、負傷者数とも前年に比べ減少させることができています。

平塚市は自転車と高齢者の事故の多い街です。今後も「交通事故ゼロ」、「地域の安全」に層のご尽力をいただくとともに、更なるご活躍、またご指導のほどを願う次第であります。

(取材協力：平塚市交通安全協会)

こんにちは

「加賀町交通安全協会」です

「こんにちは 交通安全協会です」シリーズも各地区協会を一巡し、新たなスタートの第1回を担当することになり、誠に光栄に存じています。内容は協会の年間を通じての取り組み、あるいは特定の活動や、祭礼、行事、管内の名物(人)の紹介などということですが、次の二点を中心にご紹介をしたいと思います。

第1は杉島会長が協会活動には会員増強が重要とし、単なるキャンペーンのみでなく、会員サービスとして下記の行事を平成21年度から毎年1回実施していることです。

その1つは「県警交通機動隊白バイの訓練見学」で参加者67名。その2つは「私のボランティア体験講演会」で参加者110名。その3つは「神奈川県警察学校見学」で、参加定員制限で19名。本年度の最後に行くその4つは「神奈川県警察

本部見学会」で11月に実施予定です。

これらの施設見学は、なかなか困難であります。警察署のご協力と安全運転管理者会のご協賛で実施され、参加会員からも好評をいただき、事業所会員の退会防止と新規会員の獲得にも効果が表れています。

第2は横浜の中心地のため県庁や市役所、神奈川県警察本部などの公共機関、歴史的建物や公園などがあり、ビジネスと観光資源に恵まれて下記の3商店街が発展しています。

先ず異国情緒溢れる日本最大の中華街は、東西南北の門に囲まれた一角に中華の料理、土産、食品、衣類、工芸、占いなどの店が軒を並べ、関帝廟や媽祖廟の参拝客などの多くの観光客で賑わい胃袋を満たしています。次ぎの元町商店街は元町通りを挟んで仲通り河岸通りに、洋服、バッグ、靴、家具、貴金属などのおしゃれな



店が立並び、春秋のチャージングセールは県内外から多くの買物客で賑わっています。最後の馬車道商店街はアイスクリーム発祥の地で、洋品店、貴金属店、飲食店やヨコハマを代表する高級クラブがあり大人の街として昼夜賑わっています。

協会には各商店街のパンフレットをご用意し皆様のお立寄りをお待ちしています。このような管内ですが、会員一丸となって交通安全運動に取り組んでいますので、なお一層のご指導をお願いします。

(根津 記)

地区交通安全協会の活動紹介

～秋の全国交通安全運動～



保土ヶ谷

JR保土ヶ谷駅前において、Jリーグ横浜FCのマスクोट「フリ丸くん」等と秋の全国交通安全運動を周知し、交通事故防止を呼びかけました。

伊勢佐木

JR桜木町駅前で、交通関係団体、宅配業者等の参加を得て、乗降客に対し、チラシなどを配布しながら、増加傾向にある交通死亡事故抑止を呼びかけました。



緑

歌手三山ひろしさんに1日警察署長を委嘱し、交通安全パレードを行った後、JR中山駅前で交通安全と白抜きしたリングやチラシを配布しながら交通安全を呼びかけました。

港北

JR新横浜駅前でお笑いタレントの博多華丸さんに2日警察署長を委嘱し、啓発物を配布しながら交通安全を呼びかけました。



川崎臨港

AKB48の宮崎美穂さんを1日警察署長に委嘱し、南大師中学校で交通安全講話の後、大型店舗において安全運転、交通事故防止を呼びかけました。

戸塚

JR東戸塚駅前において、戸塚区のマスクोट「ウナシー」とともに、通行中の保育園児や高齢者などに反射材などを配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



秦野市

「秦野たばこ祭り」オープニングパレードで秋の全国交通安全運動を周知、翌日は雨天のため恒例の交通安全ゲームに代えて、グッズを添えて市役所前で交通安全を呼びかけました。

大磯地区

秋の全国交通安全運動の初日、スーパー店舗前において、チラシ等を配布しながら、買い物客等に子どもや高齢者の交通事故防止を呼びかけました。



あなたの会費が交通安全活動に役立っています

編集後記

9月21日から30日まで「秋の全国交通安全運動」が実施され、各地区協会を中心として交通外郭団体がイベントやキャンペーンを盛大に展開していただいていたので、所期の目的を達成することが出来たのではないかと感じております。若干交通死亡事故がプラスに転じており、憂いているところです。この交通安全運動は、官民一体になった取り組みが功するのであって、両輪が上手く噛み合い最終目的の「交通事故死ゼロ」を目指すことが大事ではないかと思っております。

さて、自動車の製造会社や自動車関連団体は、当協会の会員として常日頃から御支援をいただいておりますが、各会社・団体は車を販売するだけでなく、「安全と環境」を合わせて対応しているところに素晴らしさを感じられます。近年の交通事故の減少は、こうした自動車関係の方々の努力があるのも忘れてはならないと思います。

また、車のメカニズムを勉強するのも一つの考察でもあります。先日「JAF神奈川支部」が主催するセミナー「トレーニング」に参加する機会を得ました。

車の点検から乗り方・スラローム・ブレーキ操作等を学びましたが、いかに、でたらめな運転操作をしていたのか思い知らされました。初心にかえって安全運転に心がけることが大事であると痛感したところです。どうか皆さんも機会があれば、このような講習会に参加してみたいかがでしょうか。

(T・T記)